令 和 元 年 7 月 2 日

第144回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

本日、第144回火山噴火予知連絡会において、前回（第143回、平成31年２月27日）以降の全国の火山活動について以下のとおり評価を行いました。
また、参考として気象庁が発表している噴火警報・予報（噴火警戒レベル）についても併せてお知らせします。

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では活発な噴火活動が継続していましたが、１月中旬頃から噴火活動がやや低下しています。広域のGNSS連続観測でみられていた姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す基線の伸びは停滞していますが、長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態が続いていることから、今後も南岳山頂火口を中心に、噴火活動が継続すると考えられます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

草津白根山

1982年から1983年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返した湯釜付近の地震活動は1993年以降低調でしたが、2002年頃から徐々に高まっており、地震多発に先行して北側噴気地帯のガス組成の変化がたびたびみられています。また、湯釜湖水の化学組成にも、高温の火山ガスに由来する成分の増加がみられています。2014年及び2018年には、湯釜付近の浅部へ火山性流体が急激に注入されることによると考えられる火山性地震の多発などがみられ、GNSS連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは収縮に転じていません。また、本白根山では、2018年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のように、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっており、今後、さらに高まっていく可能性があります。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近浅部の活動は、2019年５月中旬に火山性地震がやや増加したこと、高温の火山ガスの供給が続いていること、全磁力観測では温度下降を示唆する傾向を示していないこと、湯釜湖水の量が増加しながらも高温の火山ガスに由来する成分の濃度が依然として高く、湯釜浅部に火山性流体の供給が続いていることなどから、2018年９月下旬か

ら高まった状態が継続していると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
湯釜火口から概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられます。周辺のくぼ地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留する事がありますので、注意してください。

本白根山

鏡池北火口付近ごく浅部を震源とするBH型地震は徐々に減少し、2018年12月以降はほとんど観測されていません。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気も観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
←４月５日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。

箱根山

2019 年３月中旬頃から、山体の膨張を示す変化がみられている中、４月下旬頃から火山性地震が増え始め、５月 18 日から５月 19 日に火山性地震がさらに増加しました。その後、回数は減少したものの、2019 年４月より前の少ない状態に戻っていません。大涌谷周辺の噴気や熱活動は 2015 年以降高い状態が維持されており、火山活動は高まった状態になっているとみられます。想定火口域内に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
←５月 19 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ。
大涌谷周辺の想定火口域内では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

阿蘇山

中岳第一火口では４月 16 日の噴火以降、時々噴火が発生しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態で経過しています。火山性微動の振幅は時々大きくなりましたが、５月以降小さな状態が続いています。中岳第一火口内の湯だまりはほぼ消失し、火映や赤熱現象がみられる等、火口内の熱活動は高まった状態が続いています。GNSS 連続観測では、深部にマグマ溜りがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が継続していますが、一部の基線では鈍化がみられます。

以上のことから、火山活動は高まった状態で経過しており、今後も噴火活動を繰り返す可能性があります。

【参考】噴火警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島

新岳火口では、２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていません。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は２月以降減少し、概ね少ない状態で経過しています。また、新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は、

2018 年８月 16 日以降観測されていません。山麓からの観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の噴煙や地熱域の状況に特段の変化は認められていません。

一方、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、概ねやや多い状態が続いていますので、引き続き小規模な噴火の可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

新岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね２ｋｍの範囲では、火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

諏訪之瀬島

御岳火口では、噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

御岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

吾妻山

2018 年５月頃から続いていた大穴火口周辺の隆起・膨張を示す地殻変動は、2019 年２月から４月にかけて概ね停滞し、大穴火口付近浅部の地震活動も静穏化しました。その後、４月末頃から大穴火口付近浅部の膨張を示す地殻変動が観測され、火山性地震も多い状態で経過、微動の発生など、再び火山活動の活発化がみられましたが、５月下旬には低下しました。

しかしながら、火山ガスの濃度比（二酸化硫黄/硫化水素）は依然高い値を維持、拡大した地熱域の縮小はみられず、熱活動は高まった状態が継続していることから、大穴火口や旧火口周辺では、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、火山ガスについても注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

大穴火口や旧火口周辺では、火山ガスの噴出が認められており、熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞していますが、地震活動は、引き続き、硫黄山の周辺部、大幡山、韓国岳の周辺などで認められています。

霧島山深部には、これまでにマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018年４月27日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は2019年２月以降ごく微小な地震も含めて概ね少ない状態で経過しています。GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線で伸びの傾向が続いていましたが、2019年２月頃からは停滞しています。えびの高原（硫黄山）周辺は現在のところ静穏な

状態ですが、引き続き火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側 500ｍの噴気地帯から概ね 100ｍの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。

新燃岳

新燃岳では2018年６月28日以降、噴火は発生していません。新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、概ね少ない状態が続いていますが、2019年２月など一時的に増加がみられることがあり、引き続き火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　雌阿寒岳

中マチネシリ火口付近の地震回数はやや多いものの、ポンマチネシリ火口直下浅部の地震は少なく、噴煙活動も低調に経過しており、火山活動は概ね静穏に経過しています。

・噴煙・噴気活動は低調に経過しています。
・中マチネシリ火口付近の地震は、増減を繰り返しながら、2014 年以前と比べるとやや多い状態が継続しています。
・ポンマチネシリ火口の地震は、2019 年１月以降は赤沼火口直下を震源とするものがやや多く、2018 年 11 月に増加したポンマチネシリ火口南東の地震は少ない状態で経過しています。
・2016 年 10 月下旬以降の、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2017 年５月以降変動量が小さくなり、2018 年末ごろから停滞しています。
・全磁力連続観測では、2016 年 10 月頃から継続していたポンマチネシリ 96-1 火口南側の全磁力の増加傾向は、2018 年８月頃から停滞していると考えられます。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

④　十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動に停滞が認められていますが、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、長期的に火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

・山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動は、2017 年秋以降に停滞し、2018 年春頃から収縮を示す動きに転じた可能性があります。
・大正火口の噴煙の高さは 2010 年頃から、振子沢噴気孔群の噴気の高さは 2018 年４月下旬頃から、それぞれやや高い状態が継続しています。
・2018 年５月下旬以降、火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々発生しており、山頂付近の傾斜計でごくわずかな傾斜変化を伴うことがありました。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガス等の噴出に注意してください。

⑤　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しています。山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出の可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
山頂溶岩ドーム周辺では、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥　倶多楽

笠山周辺で局所的な熱活動の高まりがみられていますが、火山活動は概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑦　有珠山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　北海道駒ヶ岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑨　恵山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

２．東北地方

①　岩木山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　八甲田山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

③　十和田

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

④　秋田焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑤　岩手山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑥　秋田駒ヶ岳

山頂付近では火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められ、また、女岳付近では地熱活動が続いていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑦　鳥海山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　栗駒山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑨　蔵王山

火山活動に特段の変化はありません。

蔵王山では、2013 年以降、時々、火山性地震や火山性微動が発生し、地殻変動がみられています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑩　吾妻山

2018 年５月頃から続いていた大穴火口周辺の隆起・膨張を示す地殻変動は、2019 年２月から４月にかけて概ね停滞し、大穴火口付近浅部の地震活動も静穏化しました。その後、４月末頃から大穴火口付近浅部の膨張を示す地殻変動が観測され、火山性地震も多い状態で経過、微動の発生など、再び火山活動の活発化がみられましたが、５月下旬には低下しました。

しかしながら、火山ガスの濃度比（二酸化硫黄/硫化水素）は依然高い値を維持、拡大した地熱域の縮小はみられず、熱活動は高まった状態が継続していることから、大穴火口や旧火口周辺では、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、火山ガスについても注意が必要です。

・浄土平観測点の傾斜計では、2018 年５月頃から大穴火口周辺の隆起・膨張を示す変動が継続していましたが、12 月上旬頃から次第に緩やかになり、2019 年４月は概ね停滞していました。その後、４月末頃から大穴火口方向上がりの傾斜変動がみられ、５月９日 17 時 30 分頃から明瞭な傾斜変動を示しました。その後、19 時 50 分頃から大穴火口方向下がりに変化し、徐々に緩やかになりつつ継続していましたが、６月中旬頃から火山活動が静穏な時期にみられる程度の変化傾向に近づいています。４月末頃からの一連の活動に伴う傾斜変動は、大穴火口から５km 以遠の観測点で認められないことから、変動源は大穴火口付近の極浅部と考えられます。

・GNSS 連続観測では、2018 年５月頃から大穴火口を囲む基線で伸びの変化が観測されていましたが、2019 年２月頃から鈍化が認められ、４月頃から概ね停滞しています。

・2019 年４月末頃より、大穴火口付近浅部を震源とする高周波の火山性地震活動が徐々に増加し、５月はじめには多い状態となりましたが、10 日以降次第に減少し、27 日以降は少ない状態で経過しています。同じく４月末頃よりみられていた短期的な傾斜変動を伴う長周期地震（周期 10 秒程度）、低周波地震や微小な火山性微動は、高周波の地震活動が静穏化して以降も断続的に発生しており、熱水活動のやや活発な状態は依然として継続していると考えられます。

・2019 年５月９日、14 日に火山性微動が発生し、それに伴い、浄土平の傾斜計及び安達太良山周辺に設置した傾斜計でも変化を観測しました。

・火山ガス連続観測では、2018 年７月下旬頃から火山ガスの濃度比（二酸化硫黄/硫化水素）が上昇し、９月以降は高い値で推移しています。

・全磁力連続観測では 2018 年９月頃から大穴火口北西の地下浅部のさらなる高温化を示唆する全磁力変化がみられています。2019 年２月頃から一部の観測点でその変化に鈍化が認められるものの、高温化を示唆する変化は引き続き観測されています。

・浄土平の監視カメラの熱映像データで 2018 年 10 月中旬頃から認められていた大穴火口及びその周辺の地熱域の拡大傾向は、2019 年１月中旬頃から概ね停滞していますが、５月中旬頃より、八幡焼南部の一部の地熱域において温度上昇、地熱域のわ

ずかな拡大を観測しています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

←４月22日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。５月９日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ。６月17日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。

大穴火口や旧火口周辺では、火山ガスの噴出が認められており、熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

⑪　安達太良山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑫　磐梯山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　草津白根山

1982年から1983年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返した湯釜付近の地震活動は1993年以降低調でしたが、2002年頃から徐々に高まっており、地震多発に先行して北側噴気地帯のガス組成の変化がたびたびみられています。また、湯釜湖水の化学組成にも、高温の火山ガスに由来する成分の増加がみられています。

2014年及び2018年には、湯釜付近の浅部へ火山性流体が急激に注入されることによると考えられる火山性地震の多発などがみられ、GNSS連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは収縮に転じていません。また、本白根山では、2018年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のように、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっており、今後、さらに高まっていく可能性があります。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近浅部の活動は、2019年５月中旬に火山性地震がやや増加したこと、高温の火山ガスの供給が続いていること、全磁力観測では温度下降を示唆する傾向を示していないこと、湯釜湖水の量が増加しながらも火山ガスに由来する成分の濃度が依然として高く、湯釜浅部に火山性流体の供給が続いていることなどから、2018年９月下旬から高ま

った状態が継続していると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

・2019年４月以降、湯釜の中央部で灰～灰白色の変色域がみられており、湖水量の増加が認められます。
・2018年９月下旬に増加した湯釜浅部の火山性地震は、2019年３月以降低調になっていましたが、2019年５月中旬に規模は小さいながら、2018年と同様に草津白根山の西側のやや深部の膨張を示唆するわずかな傾斜変動とともに地震活動がやや活発化しました。その後、地震活動は、増減を繰り返しながら継続しています。なお、傾斜変動を伴う火山性微動は、2019年１月を最後に発生していません。
・2018年10月以降、湯釜付近浅部の膨張を示す傾斜変動が観測されましたが、４月中旬以降は季節変動を超える明瞭な変動は認められません。
・GNSS連続観測では、深部の膨張によると考えられる変動は認められません。また、2014年にみられたような浅部の膨張を示す変動も認められません。
・湯釜湖水の成分分析では、2018年５月頃から、高温の火山ガスに由来する成分濃度は依然として高い状態にあり、高温の火山性流体が新たに熱水系に入っていると考えられます。また、北側噴気地帯の炭酸ガスと硫化水素ガス成分比が、2018年４月以前の状態に戻っておらず、高い状態を維持しています。
・全磁力観測では、2018年４月下旬頃から温度上昇を示唆する消磁傾向の変化を示していましたが、その変化は2018年７月末頃から停滞しています。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
湯釜火口から概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられます。周辺のくぼ地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留する事がありますので、注意してください。

本白根山

鏡池北火口付近ごく浅部を震源とするBH型地震は徐々に減少し、2018年12月以降はほとんど観測されていません。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気も観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

・2018年１月23日の噴火発生後、多発した鏡池北火口付近ごく浅部を震源とするごく微小な火山性地震（BH型地震）は徐々に減少し、12月以降、少ない状態で経過しています。
・噴火発生後、鏡池北火口の北側の火口列から、ごく弱い噴気が時折確認されていましたが、2018年２月22日を最後に観測されていません。
・本白根山を挟むGNSS連続観測では、特段の変化は観測されていません。
・なお、逢ノ峰付近を震源とする地震は、時々発生しています。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中
←４月５日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。

④　浅間山

火山性地震がやや少ない状態です。火口付近に影響する程度のごく小規模な噴火が発生する可能性はあるものの、それを上回る規模の噴火の可能性は低い状態です。

・火山性地震は、2018 年６月頃から増減を繰り返していますが、概ねやや少ない状態で経過しています。発生している地震の多くは BL 型地震でした。
・傾斜計及び GNSS 連続観測では、特段の変化はみられていません。
・火映は 2018 年７月 19 日以降、観測されていません。

・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2018 年３月以降、概ね１日あたり 200 トン以下と少ない状態で経過しています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
火口から 500mの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性がありますので、火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

⑤　新潟焼山

火山活動は静穏な状態ですが、これまでにも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意が必要です。

・2015 年夏頃から山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、2016 年秋から噴煙高度は低下した状態が続いています。

・2015 年３月頃から火山性地震回数が増加し始め、2016 年５月１日にはさらに増加し、低周波地震も発生しました。その後、火山性地震は減少し、少ない状態で経過しています。

・GNSS 連続観測では、2016 年１月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016 年夏以降は停滞しています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥　弥陀ヶ原

弥陀ヶ原近傍の地震活動は静穏な状態が続いています。立山地獄谷では 2012 年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇など熱活動の活発化がみられており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
今後の火山活動の推移に注意してください。また、立山地獄谷付近では火山ガスに注意してください。

⑦　焼岳

火山活動は静穏な状態が続いていますが、2017 年８月上旬に規模は小さいながらも低周波地震とともに黒谷火口から噴気が観測され、また、山頂付近の地震計のみで観測される微小な地震活動は続いていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑨　御嶽山

2014 年９月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴気活動や山頂直下付近の地震活動は長期的な低下傾向が続いており、2014 年噴火口直下浅部が変動源とみられる山体の収縮も継続しています。

現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴気活動が活発な一部の噴気孔では、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

噴気活動の活発な噴気孔から概ね500ｍの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

⑩　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑪　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑫　箱根山

2019年３月中旬頃から山体の膨張を示す変化がみられている中、４月下旬頃から火山性地震が増え始め、５月18日から19日に火山性地震がさらに増加しました。その後、回数は減少したものの、2019年４月より前の少ない状態に戻っていません。大涌谷周辺の噴気や熱活動は2015年以降高い状態が維持されており、火山活動は高まった状態になっているとみられます。想定火口域内に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

・2015年以降高まった状態となっていた大涌谷の熱活動は継続しているもののさらなる高まりは認められません。
・箱根山のカルデラ内で地震活動が活発化しました。４月下旬頃から増え始めた火山性地震は、大涌谷付近から駒ヶ岳付近に分布しました。また、芦ノ湖西岸を震源とする火山性地震が、５月11日頃から発生し、５月18日から19日にかけてさらに増加しました。その後、火山性地震は、再び大涌谷付近から駒ヶ岳付近に分布するものが多くなりました。大涌谷付近から駒ヶ岳付近の地震の発生頻度は、2016年以降では高めに推移しています。低周波地震や火山性微動の発生はありませんでした。
・2019年３月中旬頃からGNSS連続観測で、基線の伸びが認められます。約20kmの長い基線に加え約３kmの大涌谷周辺の短い基線でも伸びが認められることから、やや深部とそれよりも浅い所で膨張していると考えられます。大涌谷周辺の短い基線の伸びは継続しているものの、やや鈍化傾向の可能性があります。また、大涌谷から北西約１kmに設置した傾斜計でも３月中旬頃から南上がりの傾斜変動が認められます。
・大涌谷付近では2019年３月頃から、沢の水の塩化物イオンがわずかながら上昇に転じているほか、噴気中の塩化水素や二酸化硫黄濃度の上昇が観測されています。また、同じ頃からヘリウムや二酸化炭素成分の濃度の上昇も観測されています。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

←５月19日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）へ引上げ。
大涌谷周辺の想定火口域内では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

⑬　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑭　伊豆大島

２月12日から14日にかけて、火山性地震が一時的に増加し、５月25日には島の東部

を震源とする火山性地震により震度１を観測したが、これ以外の時は地震活動は静穏で、三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調に経過しています。ただちに噴火が発生する兆候は認められませんが、長期的には山体の膨張が継続していることから、火山活動は徐々に高まっていると考えられます。今後の火山活動の推移に注意が必要です。なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。2018 年４月頃から膨張傾向がみられていましたが、2019 年１月頃から収縮に転じています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑮　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑯　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑰　三宅島

地震活動は静穏で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は鈍化しつつも続いています。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中
山頂火口内及び火口内南側の主火孔から 500ｍ以内では火山灰噴出に引き続き警戒してください。

⑱　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑲　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑳　西之島

火山活動は、噴火が確認されていた 2018 年７月上旬頃に比べ、明らかに低下しています。噴火の可能性は低くなっているものの、火口付近に噴気や高温領域が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

・2019 年６月の観測では、噴火は確認されませんでした。
・火口付近に噴気や高温領域が確認されました。また、沿岸海域には変色水が確認されました。
・2019 年６月の観測では、二酸化硫黄の放出量は検出限界以下でした。
・気象衛星ひまわりの観測によると、西之島の地表面温度は 2018 年７月下旬以降は周囲とほとんど同じ状態となっています。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中
火口から概ね 500ｍの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

㉑　硫黄島

地殻変動や地震活動、噴気の状態など火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

・３月から４月は火山性地震の日回数が 100 回を超える日が７回あるなど活発な状態で推移しました。

・GNSS 連続観測では、2014 年２月下旬頃から隆起・停滞を繰り返しており、2016 年９月頃から隆起傾向がやや加速しています。2019 年 1 月以降、硫黄島の南沖合約 500ｍ付近で一部海底が海面上に現れる現象がしばしば確認されていましたが、５月 31 日にはこれまでより広い範囲の隆起が確認されました。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中
従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

㉒　福徳岡ノ場

長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されます。

【参考】噴火警報（周辺海域警戒）発表中
周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

４．九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

②　九重山

硫黄山の北２km 付近を震源とする火山性地震が、３月 28 日に一時的に増加しました。硫黄山の地熱域では温度の高い状態が続いています。2014 年以降、硫黄山付近の噴気孔群地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられており、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

③　阿蘇山

中岳第一火口では４月 16 日の噴火以降、時々噴火が発生しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態で経過しています。火山性微動の振幅は時々大きくなりましたが、５月以降小さな状態が続いています。中岳第一火口内の湯だまりはほぼ消失し、火映や赤熱現象がみられる等、火口内の熱活動は高まった状態が続いています。GNSS 連続観測では、深部にマグマ溜りがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が継続していますが、一部の基線では鈍化がみられます。

以上のことから、火山活動は高まった状態で経過しており、今後も噴火活動を繰り返す可能性があります。

・中岳第一火口では４月 16 日に噴火が発生しました。その後も時々発生しています。そのうち、５月３日から５日までは噴火が継続し、総噴出量は 700 トン程度と概算されます。火山灰にはごく少量（2～4%）の新鮮なガラス片が含まれます。

・火山性微動の振幅は、２月上旬頃からやや大きくなり、３月 11 日から 12 日にかけて一時的に大きくなるなど変動を繰り返していましたが、15 日以降は小さい状態で経過しました。４月 14 日から 15 日にかけても大きくなり、18 日以降は概ね小さい状態で経過しました。５月３日の噴火開始後も一時的に大きくなり、その後は概ね

小さい状態で経過しています。火山性地震、孤立型微動は多い状態で経過しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、２月以降やや多い状態が続いているなか、３月 12 日に１日あたり 4,500 トンと一時的に増加し、その後は 1,300～2,400 トンで推移しました。４月下旬から５月上旬頃には 3,100～4,100 トンと再び増加し、その後は 1,800～2,900 トンで推移しています。
・中岳第一火口内の湯だまりは徐々に減少し、５月下旬にはほぼ消失しました。中岳第一火口では、４月中旬から５月上旬頃や６月以降に赤熱現象等がみられ、火口底では高い温度が観測されています。また、火口近くでの全磁力観測ではゆるやかな熱消磁が継続しており、火口内の熱活動は高まった状態が続いています。
・５月３日の噴火前から、長周期微動の活発化とともに本堂に設置されている伸縮計に変化がみられ始め、その変化はゆるやかに続いていますが鈍化傾向です。
・GNSS 連続観測では、2019 年１月頃から深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線が縮みから伸びに転じました。その他の基線もその後伸びに転じ、わずかな伸びの傾向が継続していますが、一部の基線では鈍化がみられます。

【参考】噴火警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
←３月 12 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ。３月 29 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。４月 14 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ。

中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

④　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマ溜りに対応するとみられる基線にやや縮みの傾向がみられ、火山活動は概ね静穏に経過していますが、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２km の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑤　霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞していますが、地震活動は、引き続き、硫黄山の周辺部、大幡山、韓国岳の周辺などで認められています。

霧島山深部には、これまでにマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018 年４月 27 日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019 年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は 2019 年２月以降ごく微小な地震も含めて概ね少ない状態で経過しています。GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線で伸びの傾向が続いていましたが、2019 年２月頃からは停滞しています。えびの高原（硫黄山）周辺は現在のところ静穏な状態ですが、引き続き火山活動の推移に注意が必要です。
・硫黄山の南側の噴気地帯では、活発な噴気活動が続いています。硫黄山の西側 500ｍ付近でも、やや活発な噴気活動が続いています。硫黄山の南側の湯だまりは、拡大、縮小を繰り返していましたが、５月 22 日の現地観測でほぼ消失しているのを

確認しました。硫黄山の西方に流れる沢の水は、３月頃から濁りが少なくなっています。
・赤外熱映像装置による観測では、硫黄山周辺の噴気地帯でこれまでと同様に地熱域を確認しました。
・全磁力観測では、北側の観測点では全磁力の増加が、南側の観測点では全磁力の減少が継続しており、硫黄山周辺の地下で熱消磁領域の拡大が現在も進行していると考えられます。
・硫黄山付近では、火山性地震は概ね少ない状態で経過しました。浅い所を震源とする低周波地震は引き続き発生しています。火山性微動は、2018 年６月 20 日以降、観測されていません。
・GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線で、2018 年４月の噴火後に山体の収縮がみられました。その後再び膨張の傾向となっていましたが、2019 年２月頃から停滞しています。
・精密水準測量では硫黄山の地下 600～700ｍにあると推定される圧力源は，2017 年 10 月以降膨張を続けていましたが，2018 年 12 月以降の膨張はほぼ停止状態であると推定されます。
・2018 年４月の噴火前に活発化した硫黄山の噴気の火山ガスの成分比等は、2019 年５月には概ね噴火前の低いレベルに戻っていますが、湯だまりの消滅で一部の噴気孔では高い状態となっています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

←４月 18 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。
活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側 500ｍの噴気地帯から概ね 100ｍの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。

新燃岳

新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は発生していません。新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、概ね少ない状態が続いていますが、2019 年２月など一時的に増加がみられることがあり、引き続き火山活動の推移に注意が必要です。

・新燃岳では６月 28 日以降、噴火は観測されていません。
・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は 2019 年２月 25 日から 28 日にかけて一時的に増加しましたが、概ね少ない状態で経過しました。火山性微動は、2018 年 10 月 24 日以降観測されていません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満まで低下しています。
・傾斜計では山体膨張を示す変化は認められていません。
・GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞しています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

←２月 25 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）へ引上げ。
４月５日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ。
火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく噴火の兆候は認められませんが、火口内で噴気や火山灰、火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑥　桜島

南岳山頂火口では活発な噴火活動が継続していましたが、１月中旬頃から噴火活動がやや低下しています。広域の GNSS 連続観測でみられていた姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す基線の伸びは停滞していますが、長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態が続いていることから、今後も南岳山頂火口を中心に、噴火活動が継続すると考えられます。

・南岳山頂火口における噴火活動は１月中旬頃からやや低下しており，爆発回数は２月 11 回、３月 12 回、４月５回、５月９回、６月０回（10 日現在）でした。３月 14 日の爆発では、噴煙は最高で火口縁上 3,500ｍまで上がりました。４月７日の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が４合目（南岳山頂火口より 1,300～1,700ｍ）まで達しました。
・昭和火口では 2018 年４月４日以降、ごく小規模な噴火も発生していません。
・南岳山頂火口では、夜間に火映を時々観測しました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、概ね多い状態で経過しました。２月や５月に 3,000 トン以上を観測する日があるなど時々非常に多い状態となりました。
・鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した桜島の火山灰月別噴出量は、２月５万トン、３月約９万トン、４月約６万トン、５月約６万トンで前期間（９月～１月）と同程度でした。
・火山性地震は概ね少ない状態で経過しました。火山性微動は時々発生しました。
・広域の GNSS 連続観測でみられていた姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す基線の伸びは停滞していますが、長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態です。桜島島内では、2019 年２月頃から特段の変化はみられません。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中
南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

⑦　薩摩硫黄島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。硫黄岳火口では、噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

⑧　口永良部島

新岳火口では、２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていません。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は２月以降減少し、概ね少ない状態で経過しています。また、新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は、2018 年８月 16 日以降観測されていません。山麓からの観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の噴煙や地熱域の状況に特段の変化は認められていません。

一方、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、概ねやや多い状態が続いていますので、引き続き小規模な噴火の可能性があります。

・２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていません。
・火山性地震は概ね少ない状態で推移しています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ねやや多い状態で推移しています。４月には１

日あたり 1000 トンと、一時的な増加がありました。
・GNSS 連続観測では、島内の長い基線において、2016 年１月頃から緩やかな縮みの傾向が続いていましたが、2018 年７月頃から停滞しているとみられます。
・山麓からの観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の熱異常域の状況に特段の変化は認められませんでした。
・2018 年８月 16 日以降は新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されていません。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
←６月 12 日に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引下げ。
新岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね２ｋｍの範囲では、火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

⑨　諏訪之瀬島

御岳火口では、噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。
・御岳火口では、噴火が時々発生しました。爆発は観測されませんでした。
・地震回数は概ね少ない状態で推移しましたが、噴火活動に伴い５月 31 日はやや多い状態となりました。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測しました。
・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約４km）では、５月 30 日に降灰が確認されました。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中
御岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。